

南ぬ風

Vol. 13
2009.10~12
秋号



ふしきがいっぽい
公園点描
海洋博公園

夕陽の広場

「夕陽の広場」は、海洋博公園の基本テーマ「太陽と花と海」の「太陽」を象徴する中心的な施設で、沖縄国際海洋博覧会当時（昭和50年開幕）にイベント会場として整備されました。

平成12年までは花火大会の鑑賞会場としても利用され親しまれていましたが、現在では、子供たちが楽しく遊べる遊具施設が整備され、広場中央には美しい花修景が広がる開放的な憩いの空間となっています。晴れた日の黄昏時には、東シナ海に沈む美しい夕陽が望め、あたりが紅に染まる絶景を味わうことができます。



財團法人 海洋博覽会記念公園管理財團広報誌

季刊誌 南ぬ風 秋号
Vol.13 2009.10~12

編集・発行/財團法人 海洋博覽会記念公園管理財團
2009年10月発行

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川888番地 TEL.0980-48-3645(代) FAX.0980-48-3900

(財) 海洋博覽会記念公園管理財團公式サイト kaiyouhaku.jp
国営沖縄記念公園公式サイト oki-park.jp

【南ぬ風インタビュー】 アサガオを育てるようにサンゴも育ててもらいたい。

NPO法人アクアプラネット理事長 (有)海の種代表取締役/金城浩二

《沖縄の色・形》 人の暮らしと天然素材の温かさが伝わる/北谷竹細工



ふえー
南ぬ風
かじ

誌名『南ぬ風(ふえーぬかじ)』について
「南ぬ風」は梅雨明けとともに南から吹き込んでくる強い風のことです。この南の風によって育まれてきた沖縄の自然や文化をさらに「南ぬ風」に載せ全国に発信することを意味しています。

C O N T E N T S

南ぬ風インタビュー Vol.6

3

アサガオを育てるようにサンゴも育ててもらいたい
NPO法人アクアプラネット理事長 (有)海の種代表取締役／金城浩二

沖縄の色・形

6

人の暮らしと天然素材の温かさが伝わる 北谷竹細工
取材協力／北谷竹細工 県認定工芸士・津嘉山寛喜

海洋博公園の管理運営

8

・「ECOフレーム」
ECOフレームでゼロエミッションに取り組む
・海洋文化館「解説員」
海と人とのかかわりあいを物語ります

財団の事業紹介

10

調査研究事業
緊急保護されたシリハイルカ／新種！深海のスナギンチャク／ホウオウボクに被害を及ぼす害虫対策への取り組み／首里城尚家関係者ヒアリング調査
普及啓発事業
平成21年度夏休み特別企画／イルカ・ウミガメ等のレスキュー／蝶に関する講演会

沖縄の自然 南の島の植物と動物たち

14

シリーズ沖縄の大木⑥ アカギ
シリーズ沖縄の希少動植物⑥ イラブナスピ／アオバラヨシノボリ

沖縄の民話

16

木々の由来 資料提供/NPO法人沖縄伝承話資料センター

ニュース&イベント情報(10月～12月)

18

総合研究センター、首里城公園管理センター、海洋博公園管理センターのニュース&イベント情報を紹介

ふしきがいっぱい公園点描

20

海洋博公園 夕陽の広場



表紙について

御殿の見える場所

名嘉陸穂(なかほくねん)
一九五三年伊是名島生まれ。版画家、造形作家。月桃紙に裏手彩色と呼ばれる技法で制作される作品群は、われわれ現代人が見過ごしてしまいがちな大自然の機微、生きとし生けるものの魂の声を、時に優しく、時に強く私達に伝えてくれる。

NPO法人アクアプラネット理事長
(有)海の種代表取締役

金城 浩二 Koji Kinjo

アサガオを育てるようには サンゴも育ててもらいたい

サンゴの移植活動で「人間力大賞」を受賞。

「環境を守るには議論よりも具体的に行動することが大切」と語る金城さんに、サンゴ礁の保護、再生にかける思いを語っていただきました。

「子供の頃の十分の一」

——サンゴの養殖を始められたきっかけをお聞かせください。

金城 小さい頃から海が好きで水槽でサンゴを飼っていました。仕事を居酒屋を始めてからも、水槽を置いて、その水槽でもサンゴが増えていたんですが、「98年にサンゴの白化があって、サンゴが減っていくのを目撃した」としました。僕は単純ですから、サンゴを増やして海に植えればいいじゃないかと思つたわけです。最初はあくまで趣味的な要素が強くて、海に勝手にブイを設置して、サンゴを育てることをあちこちでやつていました。嘉手納の水釜に設置したブイにサンゴがきれいに根付いたのが不思議でしたね。

——サンゴにサンゴハゼが棲みついたときに、自分が生き物の棲家をつくることができたということが感激して、気がついたら本気になっていたという感じです。

——現在の沖縄のサンゴの状況はいかがですか。

金城 僕の記憶（子供の頃）にあるサンゴ礁と比べると、今は十分の一、沖縄本島周辺に限つて言えば、もう一割もないと思います。赤土の流出とか埋立てとかでサンゴが生育しやすい海そのものが減つてきています。僕は親が本部町出身なので、子どもの頃は備瀬崎によく行っていたのですが、備瀬崎は本当に素晴らしい場所ですよ。ですから、「98年にサンゴの白化があったときに、世間があまり騒がなかつたのが不思議でしたね。

[きんじょう こうじ] 1970年沖縄県沖縄市生まれ。1998年、独学でサンゴの移植についての研究を始め、2002年に沖縄北谷漁業と共同でサンゴの移植に取り組み、1年半で500本のサンゴを北谷沖に移植する。2006年には「NPO法人アクアプラネット」を設立し、ボランティアメンバーとともにサンゴの移植活動を続けている。2007年に人間力大賞「グランプリ」（内閣総理大臣奨励賞、環境大臣奨励賞）を受賞。



沖縄の色・形

ちやたんたけざいく

竹細工谷 北

人の暮らしと
天然素材の
温かさが伝わる

竹は年中、青々として色を変えず、
節の正しい成長ぶりが「めでたい」とされ、
正月の門松、梅と共に飾られている縁起物であり、
古くから籠や笊の材料としても使われてきた。
時代の流れとともに衰退してきた竹細工だが、
竹細工には、人の暮らしと
天然素材の素朴な温かさがある。

取材協力：北谷竹細工 県認定工芸士・津嘉山寛喜



は地域によつても異なるが、それぞれ大小があり、使い方もいろいろだ。竹かごの小さいティールは、今でも釣り人が餌入れ用として使つてゐるのを見かけるが、大きなものはクーラーボックスがわりに使われていた。かつて本部町には、直径4~5メートルの「カツオバーキ」というものがあり、海上に浮かべて生けすとして使つてゐた。サギジョーリーは冷蔵庫のない時代、食物の保管によく使われた。ふたつきの入れ物で、天井からぶら下げておくと、風通しもよいので食物が腐敗しにくく、ネズミなどの被害も受けない。かつては、どこの家でも見られたものである。

また、竹の民具は、よく稻作社会と結びつけられて語られることがある。その代表的なものに「ミ(箕)」があるが、沖縄ではあまり見かけないので、非稻作社会だったのか、それとも「ミ」以前の社会だったのかなどと指摘されることがある。しかし、沖縄では早くから稲作が行なも、先祖の代から竹細工を生業としてきた家に生まれ、その三代目。今では県内で活躍している唯一の竹細工職人である。

津嘉山さんが生まれた北谷町桃原は、戦前から竹細工の盛んなところで、戦後しばらくの間、竹細工で生計を立てていた家が40軒ほどあつたという。津嘉山さんが40軒ほどあつたという。津嘉山さんも、先祖の代から竹細工を生業としてきた家に生まれ、その三代目。今では県内で活躍している唯一の竹細工職人である。

竹を原材料にした民具は多い。「ミ」(ミー)、(バー)キ、(ウンドー)キ、(ティ)ー(ラタキ)、屋敷内に植えられているホウライチク(ソジャヤダキ)、物干し竿などに利用されている肉質が厚く太いダイサンチク(マータク)などがある。

竹細工に主に使われるホウライチクで、竹細工の80%を占めている。皮に粘りがあり竹細工に適しているという。戦後しばらくの間は、山から薪を切り出し、あとで結束用としても使われていた。マダケは船具用としてよく使われていて、美しく丈夫なので高度な竹細工用とが、美しく丈夫なので高度な竹細工用として使われ、御用竹とも呼ばれている。

竹は中が空洞になつており、内側に柔らかい肉質部分があるが、竹細工は外皮を利用するのでその部分を切り離して使う。昔は刃物を使って切り離していたが、アサギヨーキー。主に食べ物の保管に使われていた。

今は機械を使つていて、「竹細工教室などで、受講者のために大量の材料を用意しないといけないですからね。機械なら材料も均一なものが揃えられますから」と津嘉山さん。機械は津嘉山さんのアイデアを取り入れた特殊なものである。



バー。大きなものは芋を入れる器として使われていた。小さなものは菓子入れなどに使われている。

落すのに都合がよくできている。沖縄では、モミや穀類の選別、調整には「ミ」ではなくミー(ミー)キーが使われてきた。

ミー(ミー)キーは竹籠のバー(バー)キと同じく、どこに家庭にも必ずあり、広く使われてきた日日常の用具である。

バー(バー)キは底が四角でアジロ編みになつており、胴はゴザ目編みした筒状の筒で、農作物などを運ぶほか、イモを洗う用具にもなる重宝な用具であった。イモを入れて弁当箱がわりに使う小さなカゴもあったが、今ではほとんど見られなくなつた。

竹細工の80%はホウライチク

かつて竹は各家庭で生垣などに植え



上：ティール(左)と布(右)バーラー(右)。ティールには、種まきなどに使われるサニムと釣りや小魚入れなどに使われたウミティールがあった。布(右)バーラーは芭蕉糸を入れる器として使われている。

下：サギジョーキ。主に食べ物の保管に使われていた。

られ、農閑期には切り倒して籠や笊を作れる農家が多く、もつとも身近な有用植物の一つだつた。現在県内では多くの種類を見かけるが、沖縄原産はリュウキュウウチク一種類だけで、他はすべて移入種である。リュウキュウウチクは別名ヤンバルダキとも呼ばれ、古くから建築材とし

て屋根瓦の下に敷いたり、茅葺きの壁などに使われてきた。移入種には、釣竿に使うことが多いホティチク(チンブクダキ)、黒糖樽のタガに使われたマダケ(カラタキ)、屋敷内に植えられているホウライチク(ソジャヤダキ)、物干し竿などに利用されている肉質が厚く太いダイサンチク(マータク)などがある。

竹細工に主に使われるホウライチクで、竹細工の80%を占めている。皮に粘りがあり竹細工に適しているという。戦後しばらくの間は、山から薪を切り出し、あとで結束用としても使われていた。マダケは船具用としてよく使われていて、美しく丈夫なので高度な竹細工用として使われ、御用竹とも呼ばれている。

竹は中が空洞になつており、内側に柔らかい肉質部分があるが、竹細工は外皮を利用するのでその部分を切り離していく。昔は刃物を使って切り離していたが、

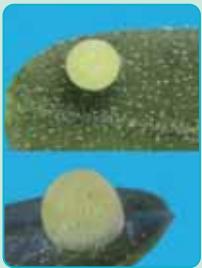
竹という天然素材の良さがある

「実用品として笊や籠などを見直してほしいですね。電気も使わずに食物を保管できる。竹独特の味わいがあるし、古くなつたら燃やして自然に戻せる。天然素材の良さがある」と津嘉山さんは、あまり注文がない。そのため津嘉山さんは、今、飾り物としての民芸品、工芸品づくりに力を注いでいる。特に竹や木を使った昆虫類が人気を呼んでいる。竹細工の製作教室と展示場を兼ねた建物が完成し、昔、沖縄にあつた竹細工品を復元させて展示し、竹文化を継承していく

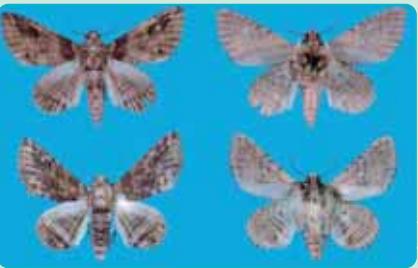
たいと情熱を燃やしている。

7

緊急保護された シワハイルカ



卵



ホウオウボククチバの雌雄成体(上♂、下♀)

ホウオウボクに被害を及ぼす 害虫対策への取り組み

ホウオウボクはマダガスカル原産の落葉広葉樹です。傘状の自然樹形は夏には広い緑陰を提供し、6月から9月の間、樹冠いっぱいに鮮やかな紅緋色の花を咲かせます。熱帯を代表する花木の一つに挙げられ沖縄でも庭



船上でのエコー検診の様子



定置網から甲板への移動作業

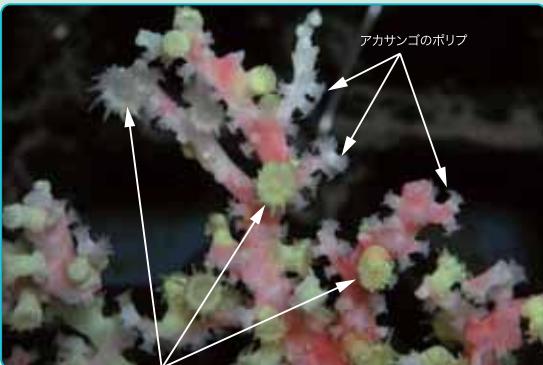
財団では沖縄近海に生息する
亜熱帯性動物の調査研究として鯨類
調査を行っています。

置網に雌雄各1頭のシワハイルカが混獲されました。沖縄県における、シワハイルカの保護例は過去3例、3頭のみです。また、国内における本種の飼育例や学術調査例は極めて少ないとみられており、本種の生態を明らかにすることを目的として、水産資源保護法の下、緊急保護を行いました。

感染症は認められませんでした。

現在、生理値の基礎データ収集のために、定期的に血液検査を行い、正常値との把握に努めています。また、飼育過程において血中ビタミン濃度が変化していく経過を観察しているほか、ボルモニン値の測定を行い、性周期や性成熟年齢の解明も行っています。生態に関する調査としては、個体間で発せられる鳴音や、エコーロケーション時の鳴音を記録し、解析を行っています。

今回、緊急保護されたシマハイカルについて、今後も生理、生態の解明に予定です。そして長期飼育に努め、槽内繁殖による種の保存に役立ててきたいと思っています。



新種のスナギンチャク アカサンゴとスナギンチャク

これを指摘してくれた琉球エイムス・ライマイア准教授と、種類なものがたくさん付いていました。この中に黄色い、インギリスの機関との機関との間に似た感じがありました。この研究が始まり、このスナギンがあります。ある学会の門家の方の写真を見せたところが新種なだけではなく、近い親類として見つかっていない、新属・新種が判明、「トーラソーアンサス・ツカハラライ」なる学名を与えて論文発表しました。これまで琉球列島海域だけで見つかっており、生きているアカサンゴの表面のみで生息していることから共生関係にあることが考えられます。沖縄の深海は調査が進んでおらず、まだ未知の生物がいることが考えられます。これからも継続して調査を進めていくことで新たな成果発見が期待できます。今後もこれらの成果を発表していくとともに、水族館の展示、教育普及活動につなげてきています。

首里城尚家関係者
ヒアリング調査



本調査は、平成16(1994)年から20年間に実施し、今年度も継続している業務です。

解析と化学合成試験も調査内容に含め、より確実性の高い被害軽減策を提案していくたいと考えています。

しています。
ヒアリン

しています。

アリから東南アジアにかけて熱帯地域に広く分布している中型の蜘蛛です。当財団ではボウオウボクの被害軽減を目的に、琉球大学との共同研究により生態と県内での生育状況調査に取り組んでいます。これまでに本種は26℃の飼育温度条件下では卵期間が3日、幼虫期間が16日、蛹期間が13日で全生育期間は約32日となり、卵から成虫に至るまでに約1ヶ月を要すること、県内では4月から12月にかけて幼虫の発生がみられ10月から11月にかけてピートクを迎えること、且つ越冬形態の一つが蛹であることが解明されました。

して い ま す。
ヒアリング調査でお世話になつたのは、尚順男爵の娘にあたる方々や、戦前城御殿でお手伝いをしていた方などでした。ヒアリングの中から、学校と利用されていた戦前の首里城の様子や、中城御殿の取りりに関する新情報、松山御殿での生活の様子など、様々な情報を集めることができました。また、調査の段階で関係者の方たちから貴重な写真を見せてもらうことができ、戦前の生活の一端を窺うことができたのです。これらの調査結果は、今年度集大成として報告書を作製して一般に公開していく予定となっています。

イルカ・ウミガメ等のレスキューは危険が伴うことと、生きた状態で放流又は保護するためには、財団職員（海獣課）が現地に到着する前の対応が重要であることから、漁協等を訪問し、ジュゴン・クジラ・イルカ・ウミガメを発見したときの連絡先発見時の対応に関する冊子を配布し協力を呼びかけています。



情報提供を呼び掛ける下敷き



「蝶の日記念植樹」実施状況



「蝶に関する講演会」実施状況

したジュゴンの胃内容物を調査することで食性も明らかになつてきました。これらの調査結果は、ストラントティング（座礁漂着）したイルカ・ウミガメ等のレスキュー活動にも大いに役立っています。

蝶に関する講演会

蝶に関する講演会

会」、「蝶の食草の記念植樹」等の活動を行っています。

平成16年には、本部町八重岳周辺が蝶の生息する自然環境が特に豊かであり、多くの蝶が生育する地域であることから、本部町は「蝶のすむ豊かな山・川・森を愛します」「蝶のすむ豊かな自然を大切にします」「蝶のすむ豊かな自然を活かします」「蝶のすむ環境を作ります」「蝶のすむまちに誇りを持ちます」と「蝶の町」宣言を行っています。

近年、地球環境問題等がクローズアップされ、子供たちへの環境教育が重要視されてきました。本部半島

の豊かな自然是、情操教育環境学習の場だけではなく、レクリエーション及び觀光資源としての活用も大きな可能性を秘めています。財団は、亜熱帶性動植物に関する調査研究事業並びに普及啓発の拠点として、希少動植物の保護・育成を行っており、また、生物多様性の保全等環境問題へ取り組んでいます。今後も、地域と連携し蝶に関する講演会、観察会等を行ない環境の保全、生物多様性の保全等の普及啓発に努めていきます。

今夏、沖縄美ら海水族館では「世界初、マンタの赤ちゃん誕生！」と題し、世界最大の巨エイマンタ展示」と題し、

平成21年度夏休み特別企画
「世界初、マンタの赤ちゃん誕生！
（世界最大の巨エイ・マンタ展）」
の開催



イルカ・ウミガメ等の
レスキュー



座礁したカズハゴンドウ

A photograph of a large, dark-colored manta ray specimen displayed in a tank at a aquarium. A child in an orange shirt and blue shorts stands to the right, looking at the display. The tank has white railings and a yellow caution tape with a picture of a manta ray.

シリーズ 沖縄の大木⑥

アカギ

アカギは山地から低地に生える常緑高木で、日本では沖縄群島・先島群島に分布する。和名は樹皮や材が赤みがかつた褐色であることに由来し、その赤い幹と光沢のある葉そして大きな傘型の樹形が美しい。街路・公園の綠化木や水源林として優れ、材は建材・家具材・農具・樹皮は褐色の染料など古くから人々の生活と関わってきた。各地域の巨樹は神木とされ祭事や信仰の対象として崇められ、人との関わりが深い。

沖縄県国頭村の比地集落にアカギやフクギなどの巨樹が群生する里山がある。この地は地元では「アサギ森」(=小玉森)とよばれ、古くから比地集落の拌所として保護されてきた聖域



である。中央には神アサギ(神人が集う神屋)があり、ウンジャミ(海神祭)など重要な祭祀の場所となっている。聖城の一本一本のアカギは地元の各門中の神木として崇められる対象とされ一番大きなアカギは幹周り52m、樹高16m。

樹齢は沖縄県北部農林水産振興センター作成の「おきなわの名木」によれば推定4000年とされ、アサギ森の主としての威厳に満ちた存在を感じる。アサギ森の植物群落は、平成3年には比地の小玉森の植物群落として沖縄県の天然記念物に指定され、植物学的にも貴重な森である。

集落を見守るよう構えるアサギ森は、比地のアカギは集落のシンボルとして長い時を経て人と神と共に生きてきた。巨樹のアカギは集落のシンボルとして、今も尚、地元の人々により根のまわりを掃き清められ大切に守られている。

和名:アカギ
科名:トウダイグサ科
学名: Bischofia javanica Bl.

動物 河川陸封型の貴重な存在 アオバラヨシノボリ



沖縄本島北部の河川にのみ分布しています。多くのヨシノボリ類は、孵化後海へ降り、成長した幼魚が再び川を遡上するのに對して、アオバラヨシノボリは比較的大きな卵を産み、孵化仔魚は海に降りず、一生を川の中で暮らします。成熟

したメスの腹部は濃い青色になります。本種は、ヨシノボリ類の進化や繁殖戦略を考える上で非常に重要な存在となっています。

生息地の消失や環境の変化に伴う種間競争などで著しく減少しているようです。



植物 シリーズ 沖縄の希少動植物⑥ イラブナスピ

本種は、宮古諸島の固有種で、海岸の岩場に生育します。高さ30センチほどの常緑小低木で、地面を覆うように茎を伸ばします。葉は広卵形で厚く、葉脈上に刺があり、花は白色で1~2花をつけ、橙赤

色で球形の液果をつきます。種子は、広楕円形で幅2.3ミトル、高さ1.6~1.7ミトルになります。

もともと自生地の個体数が少なく、生育環境が特殊であること等から個体数が減少しています。最近、宮古島では個体が見られなくなっています。伊良部島でも確認できる場所が減っています。

和名:イラブナスピ
科名:ナス科
学名: Solanum miyakojimense
レッドデータカテゴリ:絶滅危惧IA類(沖縄県)、絶滅危惧IA類(環境省)



和名:アオバラヨシノボリ
科名:ハゼ科
学名: Rhinogobius sp. BB
レッドデータカテゴリ:絶滅危惧IB類(沖縄県)、絶滅危惧IB類(環境省)

石垣島

木々の由来

はるか大昔のこと、世の始まりに神様が八重山の島々を作ったとき、島には一本も木が生えてなくむき出しの土地ばかりだった。そこで、神様は八重山を緑の島にしようと木たちを呼び寄せた。

桑がきた。それから少し遅れて竹と蒲葵とアダンがやってきた。木たちはそれぞれ土地の肥えたいい所に住もうと、「ここは俺がすむ所だ。」「いや、ここは俺が生える場所だ。お前こそあつちに行け。」と喧嘩を始めた。それを見た神様は慌てて、「喧嘩は止めてみんな集まり

なさい。」と木々を集め、それそれを木の役目と見える場所を決めてやつた。

一番先にきた福木は幹が丈夫で、大きい堅い葉をしているので、「お前は人間の屋敷の周りに並んで生え、家を大風や火事から守りなさい。」と言つた。福木は人間の家を守れと言われたので大変喜んだ。

二番目にやつてきた松には、「お前は、村を美しく囲んで病魔や悪霊から村を守りなさい。」

と言った、松も木を守れと言われて喜んだ。
三番目にきた葉の柔らかい桑には、「お前の
葉は、大風が吹けばすぐに落ちるが、その代わ
りすぐ葉も実も出るようにしてやるから」、

「少し遅れて来た竹と蒲葵とアダンには、「竹屋敷の中や畠に生えて人間や小鳥を助けなさい。」と言った。

は、天から降つてきたり雨水を少しずつ下に降ろし、大雨や地震の時でも山崩れないよう根を横に張りなさい。また、薪や竹竿や笊籠になるのもお前の役目だから子孫をたくさ

ん増やしなさい。蒲葵は、その大きな広い葉で
團扇や釣瓶になつて世のために尽くしなさい。
アダンは、海岸が大波に削られないよう
島を守りなさい。そのかわりに牛や馬に食わ
れ

れないよう」に刺をつけてやろう」と言つた。
神様が木たちの役割を決めてほつとしてい
そぞつ

地に住むことにした。すると、遅れてやつてきた蘇鉄が、「この私はどこに住めばいいのでしょうか。」と尋ねた。もう残っているところといえば岩だらけの荒れ地だけだった。「お前は遅れてきたから岩だらけの土地で我慢しなさい。それから島が飢饉になつたときには身体を投げ出して人間を救いなさい。」と蘇鉄に命令した。蘇鉄はがっかりしたが、仕方がないので岩だらけの瘦せた土

神様が、ようやく帰ろううどすると、アコウとガジマルがやつてきておそるおそる、「あのー、私達は、どこに住んだらいいのですか。」と聞いた。疲れ果てていた神様は怒つて、「お前達は勝手に石でも抱いていろ。」と言つて帰つてしまつた。それで、今でもアコウとガジマルは石に抱きついているという話だ。



●公園全体で遊ぶ

タバ・クロス作り

カジキの樹皮を叩いてタバ・クロス作りの体験を行います。また、予め用意したはがきサイズのタバ・クロス用に用いられる模様を押しオリジナルのハガキや飾りなどを作ります。

※定員100名(1日)

●10月18日(日)~25(日) 10:00~16:30

●お問い合わせ/業務課 業務係 TEL0980-48-2741 場所 海洋文化館2F コミュニティホール 無料

鬼餅作り体験

おきなわ郷土村でおばあがやさしく、昔から作られてきた鬼餅の作り方を教えてくれます。沖縄の人が鬼餅を食べるようになった由来を紙芝居を交えて楽しく紹介します。

※定員30名(要予約)

●11月7日(土)~8日(日) 予定

●お問い合わせ/業務課 業務係 TEL0980-48-2741 場所 おきなわ郷土村 無料

アダンによる沖縄玩具作り体験

おきなわ郷土村地顕代の家にて、沖縄で古くから作られていたアダンの葉を使ったおもちゃ作りの体験を行ないます。

※定員60名(先着順)

●12月25日(金)~12月30日(水)

●お問い合わせ/業務課 業務係 TEL0980-48-2741 場所 おきなわ郷土村 無料

●生き物とふれあう

冬休み マナティーしいく体験

マナティーへのエサの準備、エサやりなどの飼育体験や、マナティーのからだのしくみや同じ仲間のジゴンとのちがいなどの体験学習を行ないます。

申込方法: 当日抽選(定員20名)

受付時間: 15:45~16:15 抽選: 16:16

受付場所: マナティー館前

参加条件: 小学生以上(小学生は保護者同伴)

※保護者も定員1名含む

※車椅子、障害を持つ方のご参加の場合事前に連絡要

●12月24日(木)~12月26日(土) 16:30~17:15

●お問い合わせ/海獣課 TEL0980-48-2748



場所 マナティー館 無料

冬休み イルカ学習会

イルカたちについて楽しく学べます。

※定員:なし

場所は40名程度収容可能

●12月下旬

●お問い合わせ/海獣課 TEL0980-48-2748



場所 パークセンター 無料

●花と緑とふれあう

植物のクラフト作り

毎月違うテーマで、花や葉っぱを使ったクラフト作りが体験できます。

※10名以上は要予約

10月: ミュールを作ろう、よろよろヘビを作ろう

11月: どんぐりで遊ぼう、ミニクリスマスリース作り

12月: ミニクリスマスツリー作り、お正月飾りを作ろう

●10月1日(木)~12月25日(金) 8:30~17:30

●お問い合わせ/熱帯・亜熱帯都市緑化植物園



場所 热帯・亜熱帯都市緑化植物園 無料

苗木の無料配布

秋の都市緑化推進運動にちなみ豊かな街づくりを推進するため、苗木の無料配布を実施します。

配布予定苗木: アメリカンブルー、アメリカンホワイト、ゴールデンシャワー、コバノサンダンカ、パーカーセンサ、チエリーセージ、マツリカ

●10月中毎日 8:30~

※1日100株無くなり次第終了します。(お一人様1鉢限り)

●10月100株無くなり次第終了します。(お一人様1鉢限り)

●10月4日(日)~10月25日(日) 13:30~

●お問い合わせ/熱帯・亜熱帯都市緑化植物園



場所 热帯・亜熱帯都市緑化植物園 無料

●無料入館日 ●10/18(日)、10/25(日)は「秋の都市緑化月間」のため熱帯ドリームセンター・海洋文化館が入館無料になります。(ただし、沖縄美ら海水族館入館是有料)

※イベント実施内容は変更になる場合がございます。最新情報や詳細はHP(kaiyouhaku.jp)等でご確認して頂くかお気軽にお問合せください。

海洋博公園管理センター

インテリア観葉植物展

「オシャレに楽しむ器と観葉植物」をテーマに、観葉植物の育て方はもちろん、屋内インテリアとしての見せ方や選び方などを紹介します。

●苗木無料配布

内 容: 苗木を無料配布する

期 間: 期間中の土日 祝祭日

時 間: 13:00~なくなり次第終了

配布数: 1日50鉢先着順(お一人様1鉢限り)

●10月10日(土)~11月3日(火) 8:30~17:30

●お問い合わせ/熱帯ドリームセンター

TEL0980-48-3624



場所 热帯ドリームセンター内 入館料のみ

ハス乗り体験会

人が乗っても沈まないアマゾンの巨大ハスに乗る!思議な体験をすることができます。

※当日受け／体重15kgまで

親子で体験できるレブリカもあります。

(体重80kgまで)

●10月18日(日)~10月25日(日)

13:00~16:00(受付締切)

●お問い合わせ/熱帯ドリームセンター

TEL0980-48-3624



場所 热帯ドリームセンター内 ロータスボンド 無料

※開催日が無料入館日の為

最新のみどりに関する講演会

社会生活における緑の役割・効果等に関する最新の情報を提供します。

※要予約

●10月予定

●お問い合わせ/熱帯・亜熱帯都市緑化植物園

TEL0980-48-3782

場所 热帯・亜熱帯都市緑化植物園 無料

ブーゲンビレア展

沖縄の秋を彩るブーゲンビレア200鉢を一挙に展示。期間中、ブーゲンビレアの苗木無料配布や栽培教室などもあります。

●11月7日(土)~11月29日(日) 8:30~17:30

●お問い合わせ/熱帯ドリームセンター

TEL0980-48-3624



場所 热帯ドリームセンター内 入館料のみ

熱帯植物管理技術講習会

一般の方・行政や民間関係団体等の緑化担当者を対象に、熱帯植物に関する講習会を行ないます。

※要予約

●11月予定

●お問い合わせ/熱帯・亜熱帯都市緑化植物園

TEL0980-48-3782

場所 热帯・亜熱帯都市緑化植物園 無料

ハイビスカス展

世界のハイビスカスを約250品種展示します。期間中、ハイビスカスの苗木無料配布やハイビスカスティーの無料試飲もあります。

●10月5日(土)~12月28日(月) 8:30~17:30

●お問い合わせ/熱帯ドリームセンター

TEL0980-48-3624



場所 热帯ドリームセンター内 入館料のみ

亜熱帯緑化事例発表会

緑化意識の高揚、都市緑化の普及・啓発のために、亜熱帯に適した緑化技術等に関する発表会を開催します。同日、沖縄都市緑化祭も開催されます。

●10月18日(日) 09:00~12:00 場所 南城市シーガーホール 定員 100名 無料

人と動物の共感感染症に関する研究会 一水族館での真菌症対策第一

人と動物の共感感染症について、真菌症を中心解説し、人並びに動物での感染の現状と対策について学びます。

●10月24日(土) 14:30~17:30

場所 総合研究センター視聴覚室 定員 70名 水族館・動物園関係者、歯医師、医療関係者等 無料

サンゴ礁講習会

漁業やさまざまな活動の場としてのサンゴ礁を、漁業者自ら保全する水産庁事業への参加者向けの講習会の一環で、サンゴ群集の再生方法、分類と見分け方などを学びます。

主催: 全農漁政部環境生態課チーム／協力: (財)海洋博覧会記念公園管理財団

●10月29日(木) 13:00~16:00

場所 総合研究センター視聴覚室 サンゴ礁保全事業参加の漁協および関連漁業者等 無料

第1回 ハイビスカス展

沖縄を代表する花木であるハイビスカスの原種、園芸種を展示紹介するとともに栽培教室、苗木無料配布、パネル展示を行い、ハイビスカスの咲き誇る美しい島づくりを目指します。

主催: 日本ハイビスカス協会／共催: (財)海洋博覧会記念公園管理財団

●10月31日(土)~11月1日(日) 場所 那覇市緑化センター 無料

サンゴの移植シンポジウム④ 諸外国の事例に学ぶ

サンゴ群集の保全、再生・創出活動の一つとして、サンゴの移植にまつわる諸問題を議論し、将来への展望を探るシンポジウム。今回は、タイとインドネシアから研究者と移植事業実施者を招き、沖縄で活動している個人・団体団体との情報交換と議論を行ないます。

主催: (財)海洋博覧会記念公園管理財団／後援(予定): 名校大学総合研究所、沖縄県サンゴ礁保全推進協議会、沖縄県自然保護課

●11月26日(木) 13:30~16:00

場所 総合研究センター視聴覚室 定員 70名 サンゴ礁保全に心がある方々 無料

【お問い合わせ】総合研究センター・普及開発課 TEL 0980-48-2266

※各イベントの申込みは、実施日の1ヶ月前より開始いたします。

※各イベントは内容の変更や中止となる場合がございます。最新情報や詳細はHP(kaiyouhaku.jp)等でご確認して頂くかお気軽にお問合せください。

総合研究センター

美ら海自然教室⑪ サンゴの秘密を探る

造礁サンゴの仲間のいろいろなサンゴを、ルーペや顕微鏡で観察して簡単な実験を行い、体のつくりや行動なども調べて、生きたサンゴの秘密を探ります。

●10月31日(土) 13:00~15:00 場所 総合研究センター視聴覚室 定員 20名/親子 無料

美ら島・美ら海こども工作室④

サンゴや草を使ってTシャツを染めよう

サンゴや貝、草や野菜などの形や内部の作りを観察して形の美しさや無駄のなさを学び、お気に入りのものを布に型押しして、オリジナルのTシャツなどを染めて楽しめます。

●11月7日(土) 13:00~15:00 場所 総合研究センター視聴覚室 定員 20名/親子 無料

美ら島・美ら海こども工作室⑤

空のお花畠 きれいな花の凧を作って空に咲かせよう

いろいろな花を観察して花の作りを学び、それらの花の中から凧にしやすい美しい花を選び、オリジナルの凧を作って揚げ、凧があがるわけや上手に揚げるコツを学びます。

●12月12日(土) 13:00~15:00 場所 総合研究センター視聴覚室 定員 20名/親子 無料

首里城公園管理センター

中秋の宴

かつて、中国皇帝の使者「冊封使」をもてた冊封七島のひ

と「中秋の宴」を再現。古典舞踊や組踊り、首里城祭王・王妃選出大会を行ないます。

実施日

平成21年10月2日(金)~4日(日)

時間 18:30~21:00(予定)

場所 首里城公園 御庭

首里城祭

「琉球王船祭行行列」は、国王・王妃の琉球側の行列と、中国皇帝の使者「冊封使」の中宮側の行列に、華やかな伝統芸能をくわえた豪華絢爛な一大大祭行行列を国際通りで開催します。

また、首里城公園におきましても、中国皇帝の名で、琉球国王の即位式「冊封儀式」の再現や伝統芸能、組踊りを披露します。

実施日

平成21年10月30日(金)~11月3日(火)

場所 首里城公園・国際通り(那覇市)

【お問い合わせ】首里城公園管理センター TEL 098-886-2020



首里城祭